

『のぞみ31号が部品の落下により緊急停車した

事故に関する申し入れ』について業務委員会開催

会社は安全確保のために尽力せよ！

**他社の事柄、聞いてない、回答する立場にないで再発防止
ができるのか！早急に原因を把握し対策を実施せよ！**

本部は3月24日、申第19号『のぞみ31号が部品の落下により緊急停車した事故に関する申し入れ』について業務委員会を開催しました。

1月25日午後5時10分ごろ、山陽新幹線の東京発博多行き『のぞみ31号』が小倉～博多間を走行中、異音感知してトンネル内で緊急停車。車体から部品が落下し、モーターの回転を車輪に伝えるための歯車が入った装置が破損するなどしていたとマスコミが報じた事故について、事故の詳細や原因、再発防止対策などを明らかにすることを求め、関係するJR東海所属車両の検修作業に携わる車両所の現場社員に、具体的な説明をせず「入念な点検」を指示をしたこと等は、安全を軽視する姿勢であると本部は厳しく会社を追及しました。

申第19号に対する会社の回答と主な議論は以下の通りです。

〈申第19号に対する会社回答〉

1. 今回の事故の詳細について時系列をもって明らかにすること。

【回答】

平成29年1月25日17時11分頃、のぞみ31号（N700系K10編成、西日本所属）は小倉～博多間走行中、車外で異音を認め緊急停止した。その後、車両点検を実施したが異常が認められなかったため運転を再開した。この関係で、当該列車は博多駅へ70分遅着した。

2. 「歯車の入った装置」の破損の原因を明らかにすること。

【回答】

他社の事柄であり、回答する立場にない。原因については、引き続きJR西日本に確認していく。

3. 「歯車の入った装置」の製造会社及び製造年月日を明らかにすること。

【回答】

他社の事柄であり、回答する立場にない。

4. J R 東海の車両に同様の「歯車の入った装置」が使用されているのならば、直ちに運行を中止し、「歯車の入った装置」を交換すること。

【回答】

原因は定かになっていないが、仕業検査、交番検査時に700系、N700系、N700Aの台車の入念点検を実施し、異常はなかった。

5. J R 東海における再発防止対策を明らかにすること。

【回答】

現時点では原因が判明していないが、当社としては車両所での仕業検査、交番検査時に台車の外観からの入念点検を実施している。

6. 同編成は、緊急停止した地点から、「走行に支障がないことを確認したため運転を再開した」とされているが、部品が落下しているにもかかわらず、異常がないと判断した根拠を明らかにすること。

【回答】

他社の事柄であり、回答する立場にない。

7. 同編成に対する検査歴とその時の車両の状況について明らかにすること。

【回答】

他社の事柄であり、回答する立場にない。

8. 緊急停止した地点から博多駅まで運転したと考えられるが、そのときの車両に対する応急処置方法及び運転方法を明らかにすること。更に、博多駅からの車両運用はどのようにしたのか明らかにすること。

【回答】

他社の事柄であり、回答する立場にない。

9. 台車検査と交番検査の延伸された周期を元に戻すこと。

【回答】

そのような考えはない。

10. 今後このような事故が発生したときは、速やかに労働組合に報告すること。

【回答】

必要に応じて適切に対応する。

〈主な議論〉

なぜ会社は積極的に説明しようとししないのか！

組合：「他社の事柄であり、回答する立場にない」などという回答は他人事のように聞こえるが、31Aはどこを走っているのか。

会社：東京～博多間である。

組合：JR東海エリアも走っている。もっと詳細について回答をされるべきではないのか。

会社：西日本車両で西日本管内での発生であるので、知る立場にない。

組合：知る立場である。X、G、我が社所属の編成と同じ台車、歯車箱だ。

会社：何もしなかったわけではなく、原因は解らない中でも点検をして異常がないことを確認した。

組合：同じ歯車装置を積んだ台車を走らせているのだから、もっと前広に回答をいただきたい。

会社：引き続き原因を確認しているが、西から聞いていない。

組合：この事故に対して、どのような関心を持って見ているのか。

会社：関心を持って、入念点検を実施している。

組合：こちらから西に問い合わせ、対策を実施すべきである。

会社：当社でやるべきことはあろうが、現時点でやれることをやっている。

組合：乗客と乗務員の命にかかわる事象であるという危機感が伝わってこない。

会社：勝手にそうとられても構わないが、やれることをやっている。

同様の事象が東海でも発生すると考えないのか！

組合：東海で同様の事象がおきたらどうするつもりなのか。

会社：仮定の話をしてもしようがない。

組合：今回の事象は歯車の破損だと聞いている。緊急で約1時間停止した。どのような点検をしたのか。

会社：西日本がどうされたのかは聞いていない。

組合：車外で異音が出たというが、それだけなのか。火花が出たようなことはないか。異臭はしなかったのか。

会社：異音を車掌が認めたことまでは聞いている。

組合：故障表示はどのようなものであったか。

会社：駆動系異常がモニター表示された。

組合：いつの時点で表示されたのか。

会社：それは聞いてない。

組合：駆動系異常はどんな時に表示されるのか。

会社：説明できるものをここに持ち合わせていない。

組合：速度30^{km/h}超えるときで、主電動機と車軸の回転数において速度差が3^{km/h}以上で5^{km/h}以上励磁でホップアップするのではないか。

会社：正確性を期すために、持ち合わせがないとしか言えない。

組合：駆動系異常表示は消えても記録が残っているはずだ。その後、博多まで同様のホップアップ現象は発生していないのか。

会社：わからない。

組合：異常が発生したのに、博多まで走らせたのは問題である。過去に、東海のN2、C50の歯車箱破損が発生している。今回の事象は、それに類似しているのではないか。東海でこの種の事故がまた発生する可能性が高い。歯車箱の火花が引火とも聞いている。トンネル内で緊急停車し車両火災の大事に至らずにすんだ。

会社：火が出たというのは、どこから聞いているのか。こちらは聞いていない。

組合：まったく聞いていないのか。

会社：新聞にも出ていない。こんな情報が入ってきたがどうということかと西日本に問い合わせなければならない。

組合：詳しいことを訊いてないのか。31Aは何キロ地点に停車したとか。異臭もあったとか。誰が異常なしと判断したのかとか。

会社：わからない。

組合：西のエリアだからとか他社のことだからなどと、看過できるものではないと考える。

理由を明らかにし、丁寧な説明をして 入念点検を実施すべきではないのか！

組合：会社として実施したという入念点検はどのように行ったのか。

会社：普段の点検に増して点検した。

組合：現場で実施はされたが、点呼で入念というだけで具体的指示はなかった。なんのためにという理由や説明はなかった。

会社：前提を置いたら、そこだけしか見ないということもある。

組合：そんなことはありえない。なんのために入念に点検するのか現場でしっかり説明すべきだ。31Aは、部品を次々と落下させながら走るという異常事態だった。減速して走れという指示はなかったのか。

会社：わからない。

組合：駆動系異常の表示が出たら「指令に報告して指示を受けること」となっていたのが、「停車してから報告せよ」となった。その理由は何か。

会社：速やかに対応するというところで、そうなったのではないか。重大か重大じゃないかではなく、より安全なやり方にしていこうという一般的な取り扱いのひとつである。

組合：会社内で議論があったのではないか。

会社：なんらかの議論があって取り扱いを変えたということだと思います。

組合：今回の事象でなぜ表示が出たのかを、東海ももっと追求すべきである。

過去の事故事象を教訓化せよ！

組合：C 5 0 ギアケース破損の原因は何だったのか。

会社：軸受けが悪かったと聞いている。

組合：材質の問題はなかったのか。

会社：わからない。今回の事象と結びつけるのは、仮定の話になってしまう。

組合：N 2、C 5 0 の事象から教訓化したものはあるのか。

会社：説明できるものを手元に持ちあわせていない。

組合：何もないでは、3 1 A のような事故がまた発生すると考えざるをえない。

現場の声を聞いて、安全のためにあらゆる対策を！

組合：3 1 A は博総に取り込んだと聞いている。搬入はどのように行ったのか。

会社：回送で、搬送仮台車をつけたと聞いている。

組合：東海所属も同じ台車を使用しているということで、不安はないのか。絶対に大丈夫だという自信を持っているのか。

会社：安全を守っている現場の皆さんを信頼している。

組合：ならば、現場の声をしっかり聞いて受け止めること。ギアケースの油面計が割れる事象が発生していることは聞いているか。速度向上によるバラスト飛散が原因ではないかと危惧している。

会社：聞いていない。

組合：安全を確保するには、仮説を立てて実証を重ねていくことが重要だと考える。申し入れをしての回答にもかかわらず、他会社の事柄だとか、情報がきてないとか、原因が解らないとか、会社の安全に対する真摯な姿勢が見えてこない。速度向上、検査周期延伸などが事故原因に影響しているのではないか。早急に原因を把握して、車両の改良を実施すること。台車交番検査の周期を元に戻して、より入念な点検を実施することも必要。また、G 編成の台車振動検知装置を X 編成にも搭載されたい。

会社：現段階でやれることをやっている。油面計についての議論は、鉄事に申し入れいただきたいと考える。

以上